

湯来・湯めぐり

湯来町 リフレッシュガイド



◆もっともっと輝く明日のために◆
湯来町商工会

緑したたる溪谷で深呼吸

湯来には大小二十七もの滝があります。

その内十一の滝をここでご紹介いたします。

温泉でもつかりながら滝の散策をしてみたいかがでしょうか？
心のオアシスがここに 있습니다。

ひっそりとした静けさの中に

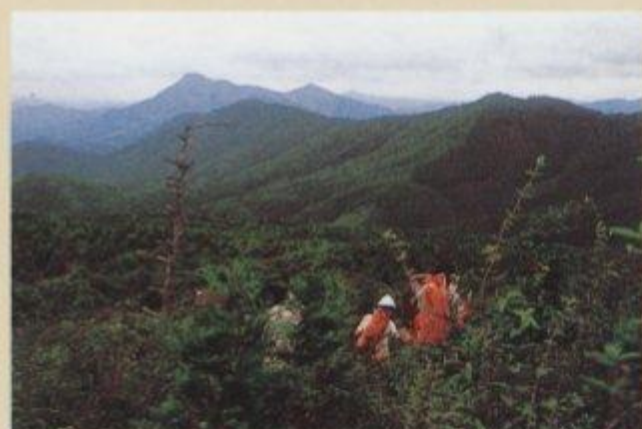
かすかな生命の輝きを見つける

きらめく魚の背、鳥のはばたき、虫の足音

まだ見ぬその姿を追いかけるうち

いつしか迷い込む、森の中へ……

自然を楽しむ山歩き



憩いの森

おいしい空気をお腹いっぱい吸いこんで
ゆっくりとふるさとの山歩きを楽しみましょう。

湯来町の滝を楽しむための ワンポイントアドバイス

- 山の天候は変わりやすいので、雨具（雨ガッパ、折りたたみ傘）は必携です。
 - 湯来町の滝（山）は四季を通じて見どころがいっぱいです。カメラ、スケッチブック等で、思い出を記録してください。
〈なお、カメラでの撮影には足下に充分注意〉
 - 多少の非常食や、常備薬（傷薬等）をご持参ください。
 - ゴミ等は必ず持ち帰ってください。
 - トイレは滝を見る前にすませてください。
 - 木や草花の採取はお断りします。
- 以上、ごゆっくりとお楽しみください。

滝見学の後の ワンポイントアドバイス

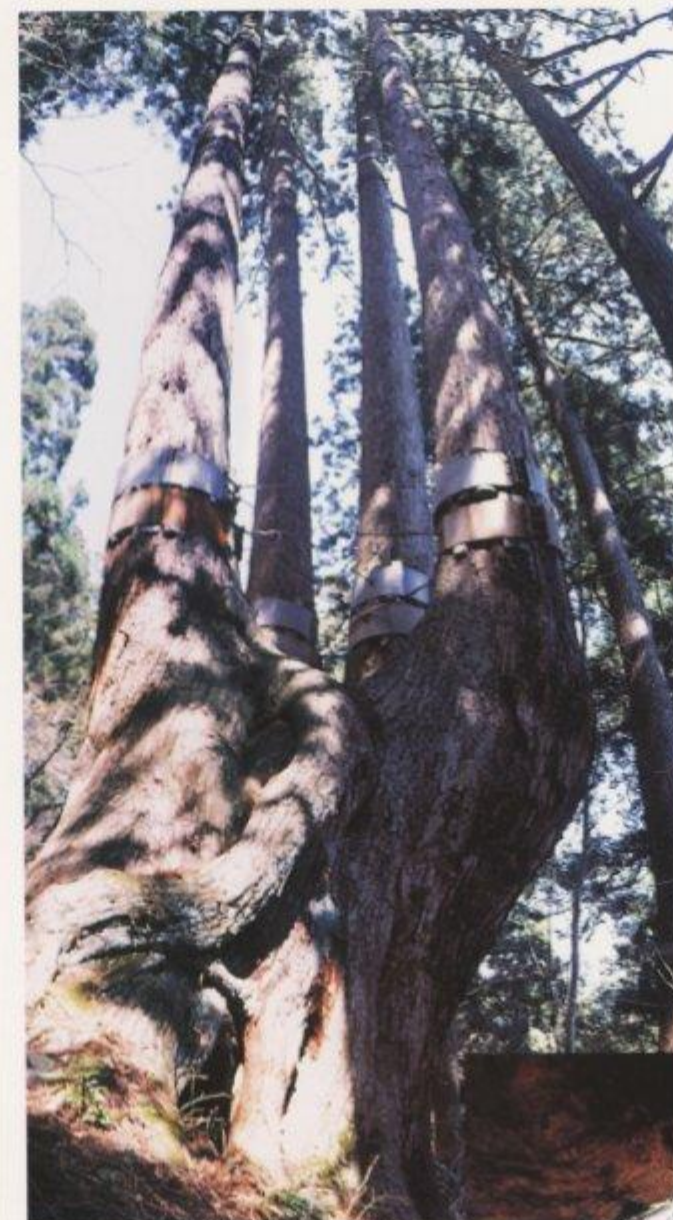
- 湯来町には8軒のロッジ、旅館、民宿があります。ゆっくりと温泉につかって、体を癒してください。また、おいしい郷土料理をお楽しみください。



●梅の里（宇佐）
園内には800本の梅の木があり、開花期には無料開放されています。



●加下峡
奥湯来温泉の近く、もみき森林公園に行く途中にある渓谷で、水は清らかで澄み、新緑や紅葉のころの美しさは格別。ハイキングや森林浴に絶好のポイントです。

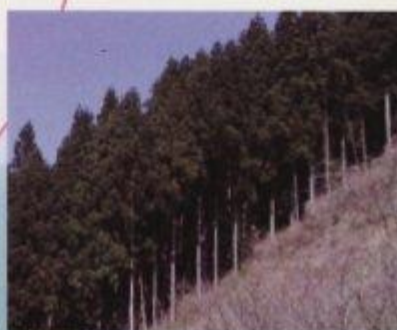


四本杉（「全国の森の巨人たち百選」に認定）
湯来町の財産である四本杉は推定樹齢400年余りの老木です。1株が4本に分かれており、天に向かってそびえ立つ雄志な姿には圧倒されます。



町の花

●山ゆり（学名ささゆり）は町内一円の林野で見うけられます。その姿は清々・かれんの中に気品をそなえ、広く町民から愛されています。



町の木

●杉
杉は県下で優良林業地域とされている湯来町の象徴にふさわしく、美しい緑を形成する代表的な樹木です。

保護状態	樹の大きさ	樹の形	場所
順位の ワイヤーロープで4本が分離倒木しないよう固定されている。	樹高 9.9メートル 樹齢 400年余 株状の杉では県内第2位	天然杉4本が接合した株状	湯来町和田宇恵下谷山国有林 東郷山（977メートル）の 北斜面標高850メートル位に存在

東郷山の恵下谷山国有林内に存在する「四本杉」が平成12年11月21日「全国の森の巨人たち百選」に認定され、林野庁長官より表彰されました。この受賞を契機に「四本杉」を湯来町のシンボルとして保護することと、恵下谷山の天然樹や野鳥の観察森林空間での森林浴や生涯学習の場として愛されています。

歩くほどに、触れるほどに、
湯来の魅力が見えてくる。

湯来町は砂谷・水内・上水内と三つの村が合併しており、清らかな水と美しい緑に恵まれています。湯来の四季の訪れは、さりげなく野山の花や風が知らせてくれます。たまには自然を感じながらのふるりの山歩きを楽しんで見ませんか？きつと新しい発見と感動に出会えます。

砂谷 さご たに

この地域は小盆地で山は低く、広島市の西部と隣接しており、市の中心部から至近距離にあります。水内、上水内よりは急峻な山も少なく、大きな河川もなく滝も多くはありません。また、南部の町境の山腹からは日本三景の一つ「安芸の宮島」や瀬戸内海の多島美を展望する事が出来ます。南部の大山、阿弥陀山を通り、伏谷へと下がる2、300メートル憩いの森の遊歩道を小鳥のさえずりや緑に包まれて快適に進むと、美しい瀬戸内海が手に取るように望めます。



しあわせ観音

周辺の見どころ

これほど自然環境に恵まれた本町には天然記念物の指定は少なく、只今のところ大森八幡神社のつだけであったが、「スギ、ヒノキ、ホホノキ、ウラジロガシ」の巨樹が平成4年の台風で倒木したため、神社周辺はふれあい公園となる。近くには、白井の滝、湯来しあわせ観音あり。



① おおこや 大古屋の滝

ところ

県道41号線と国道433号分岐より約1キロメートル湯来町方向に進むと、国道の右手山林の中にありますが、よく注意しないと目に止まりません。

◆ 見どころ ◆

国道から一步踏み込むと、こんな所にこんな滝がと驚くほど、幾重もの階段状に伝う水量豊かな流れは、薄暗い木立の中にもあざやかな光景を見せています。さらに登ると深い滝つぼがあり、ここは昔、えんこう淵とも呼ばれていました。



ヒメジョオン(キク科)

北米原産。明治維新の頃渡来した帰化植物。鉄道の普及で全国に広まった。日本全土に、市街地を中心に広がっている多年草。

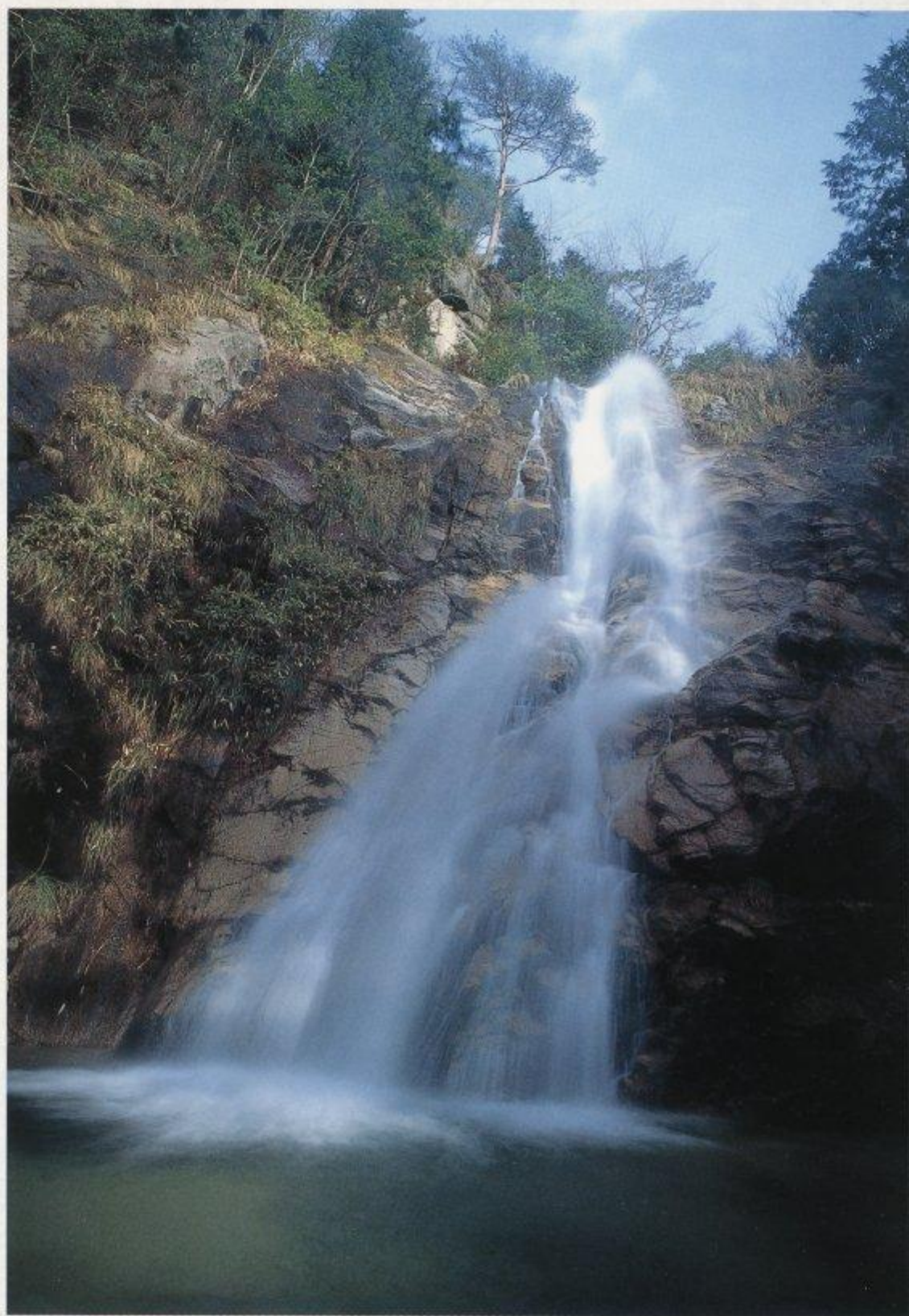


所要時間	県道41号線と国道433号分岐より車で3分
道の状況	なだらか
滝の水量	普通

② 白井の滝

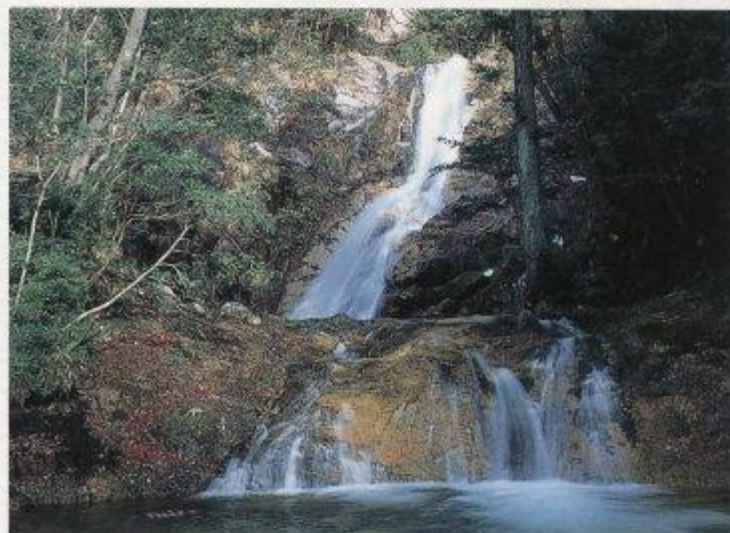
ところ

県道41号線と国道433号分岐より約4キロメートル湯来町へ入ると大森バス停があります。そこから東郷山登山道入口より林道白井線を約2キロメートル入ったところ、林道の左下にあります。



◆ 見どころ ◆

岩壁に白線を引くように流れるこの滝は、その名も約二百年前、岡岷山の「都志見往来日記」に記されているほどに著名な滝の一つです。この滝は二つを重ね見ることでより一層の美観を感じさせます。またさらに登っていきますと、東郷山、四本杉にもたどり着きます。



所要時間	登山口から徒歩5分
滝の水量	普通

水内

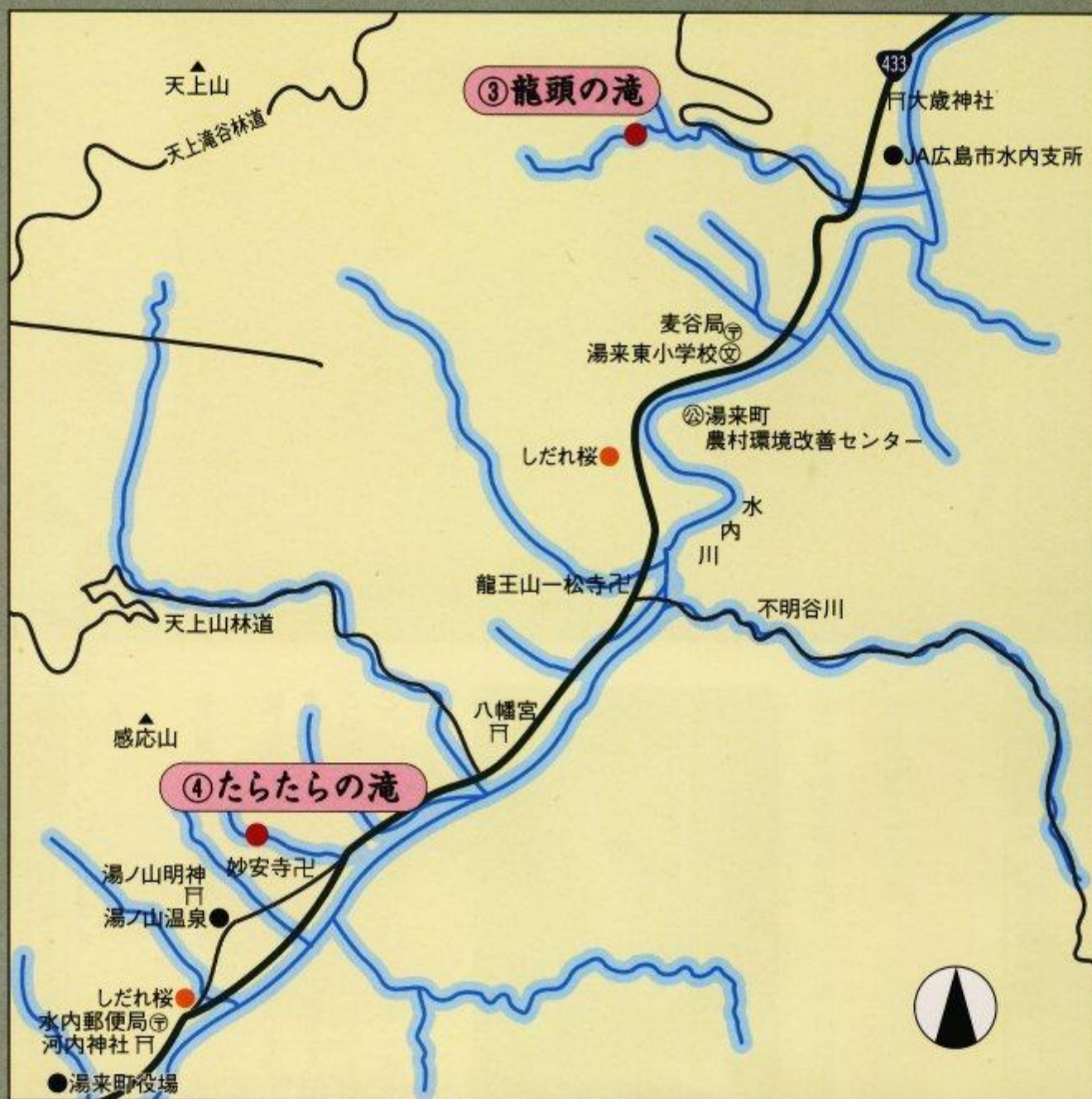
四本杉湯来町大字和田宇恵下谷山

広島市沼田町と湯来町との境界をなす稜線上の主峰東郷山（977メートル）の北斜面、標高800、850メートルのところに四本に分岐している杉の木があります。一本の杉が分岐したのか、四本の杉がくっついていのか、現在のところ巨木が並ぶ原始林のなかでもひととき目立ち、王者の風格があり、偉観です。

周辺の見どころ

しだれざくら

湯の山温泉入口バス停より、温泉方向に進むと前方左側にすばらしい、しだれざくらが楽しめる。さらに桜並木を進むと、広島藩主・浅野公公用達の湯治場を訪れる。



③ 龍頭の滝

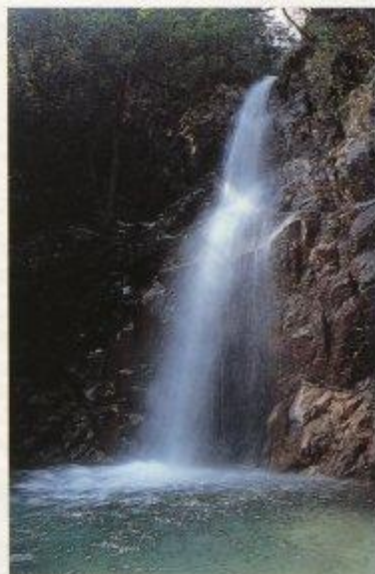
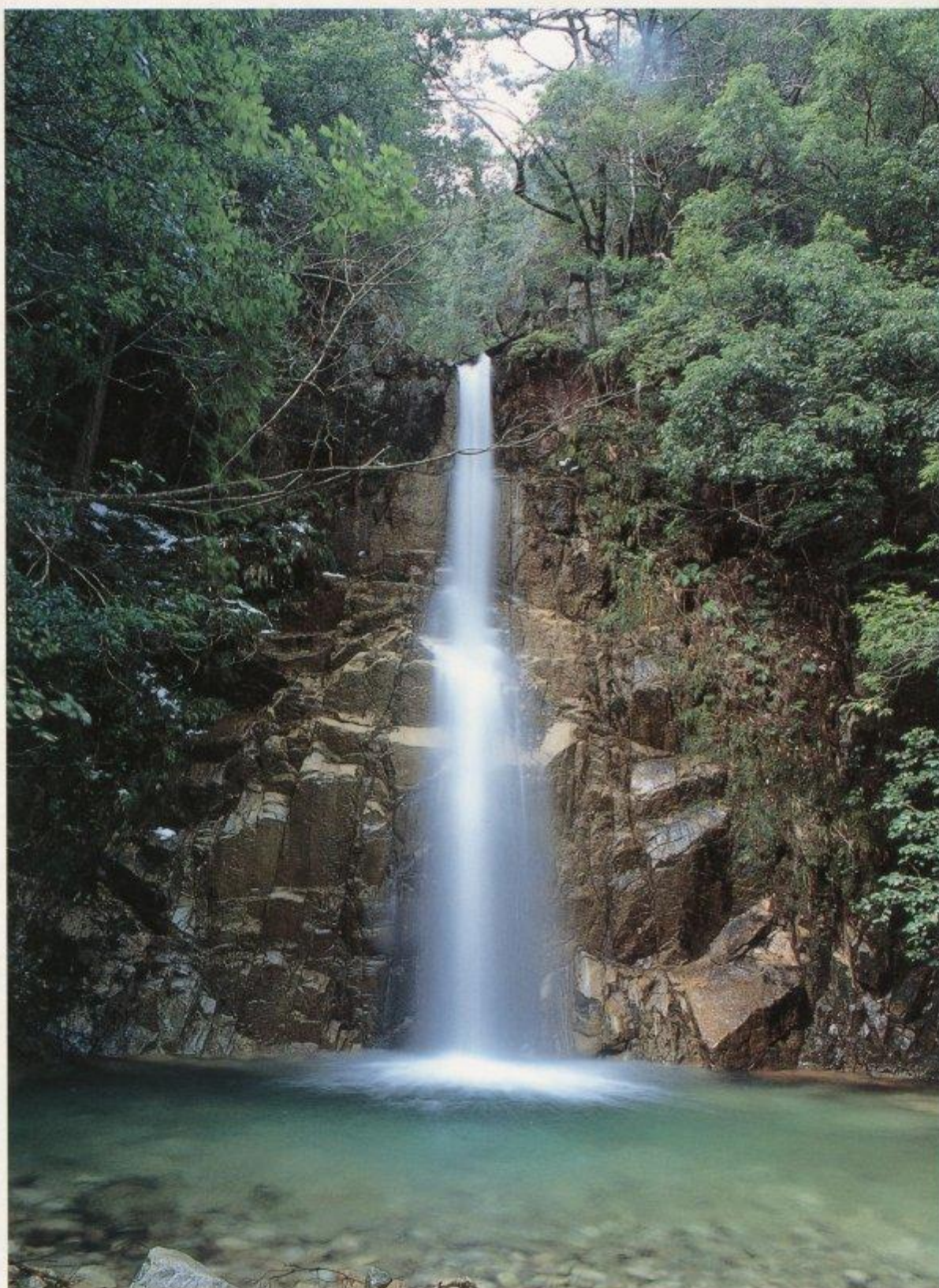
りゅううず

ところ

水内下字乙出から、滝谷林道を約1キロ入り左折し、滝谷川に沿って天上山登山道を数百メートル登ったところにあります。

◆ 見どころ ◆

美しさでは町内で一番の名滝です。真昼でもフラッシュがいるほどのうす暗さは、この滝にまつわる幾つかのいわれを知るほどに、神秘的な不気味さを感じさせられます。

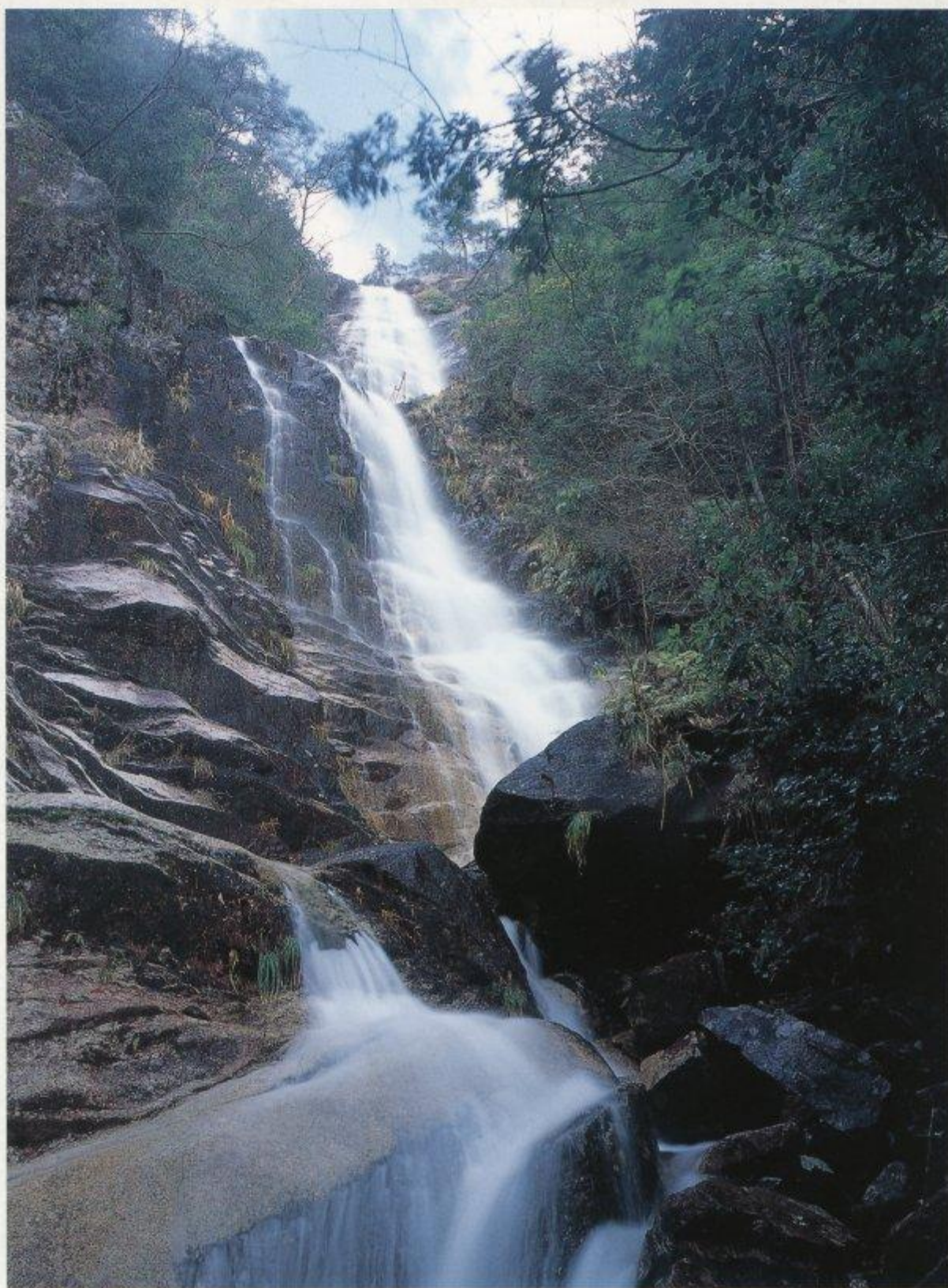


所要時間	登山口から徒歩20分
道の状況	坂
滝の落差	16メートル
滝の水量	普通

④ たらたらの滝

ところ

和田のYMCAみのち学荘裏から遊歩道を約400メートル北西に歩いたところ。
国道433号線からも中腹に眺めることができます。



◆ 見どころ ◆

平常は水量少なく、岩肌を伝って「たらたら」と流れていますが、いったん雨が降ると、三段の壮大な飛瀑と変わります。中段に「千畳敷」といわれる平地があつて、その昔修験者の道場にも使われたということです。



チャルメルソウ(ユキノシタ科)

山地の湿った岩の下などに生える常緑の多年草。茎は地面を
はうように伸び、節のところから根を広げている。種子をまき
散らしたあとの実の形をラッパに似た楽器チャルメラに似て
いるのでその名がつけられたようです。

所要時間	登山口から徒歩10分
道の状況	なだらか
滝の落差	10〜25メートルが三つある
滝の水量	普通

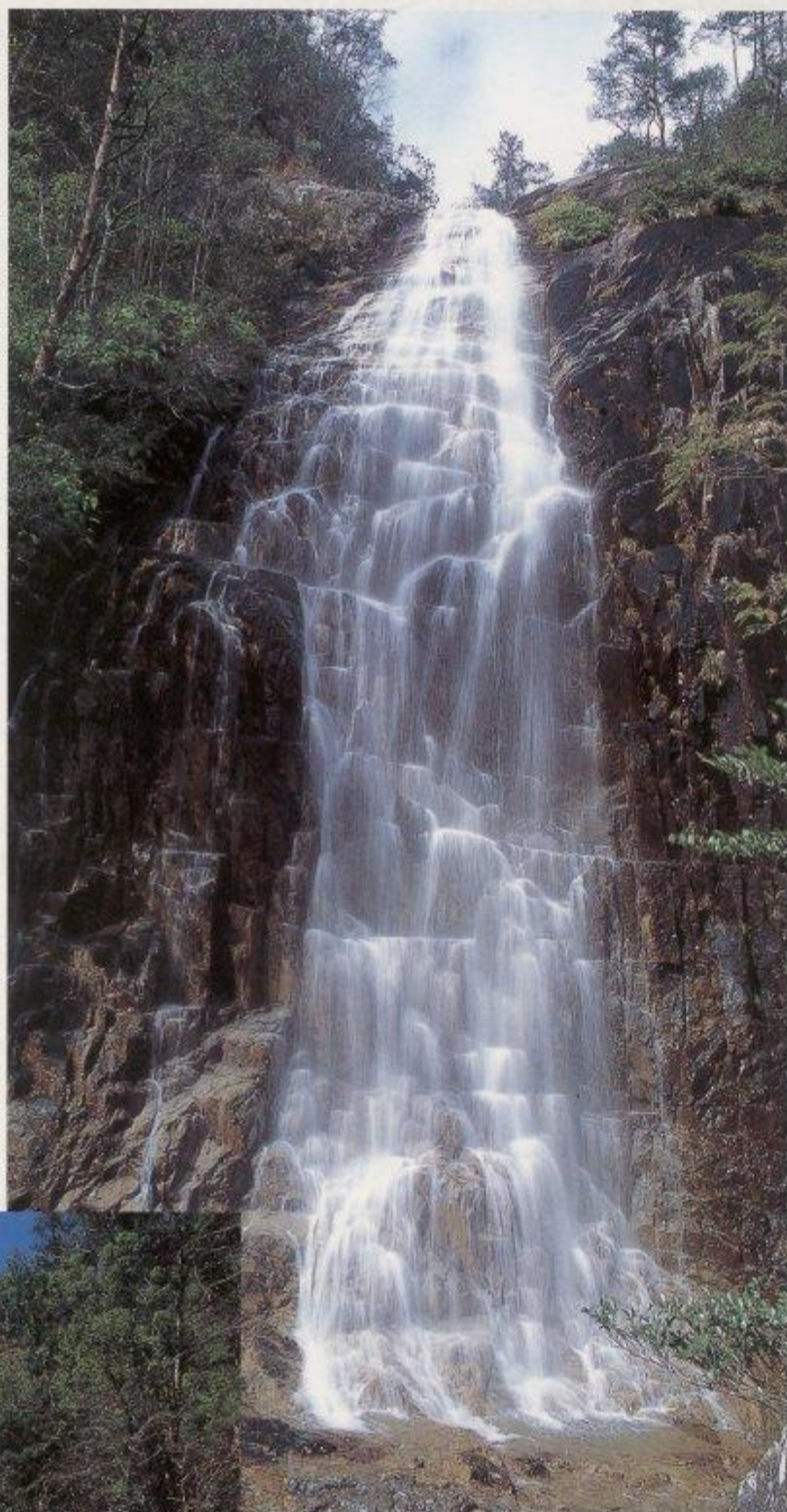
豆 知 識

山歩きの もう一つの 楽しみ

山に入るのは、歩くだけでなくそこに住んでいるいろんな生き物たちに出逢えるのももう一つの楽しみだ。例えば普段は見られない美しい山野草や虫、野鳥達等そこで見られない貴重な生き物などを観察するのも良いものです。そこで役立つのがポケット図鑑。最近、野外観察用のこの種の本もかなり多く出版されている。興味のある分野から一冊をお供に楽しさが倍増しそう。

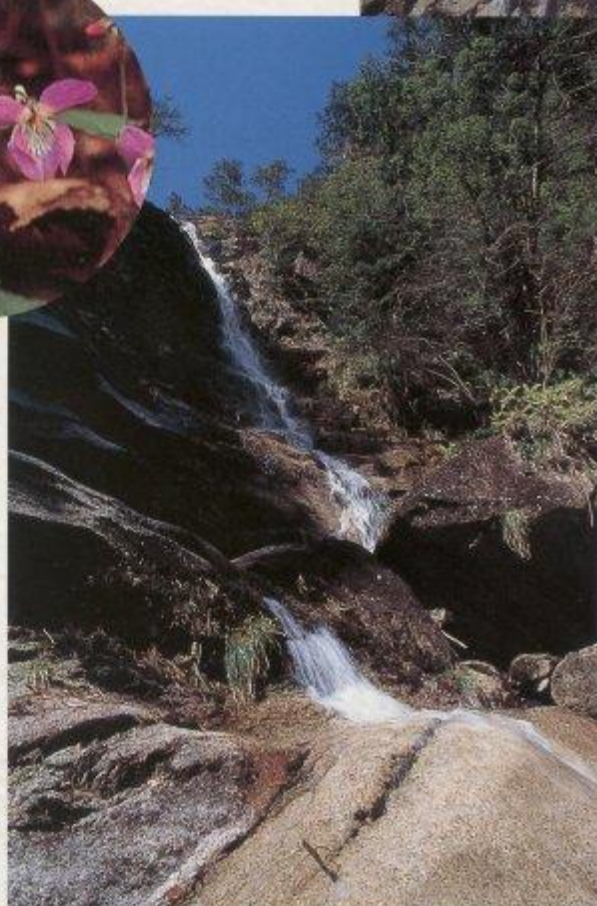
タチツボスミレ (スミレ科)

山野に見られる多年草。花の初期は根生葉だけだが、しだいに地上茎が伸び、15～30cmに達する。葉柄は根元や葉腋から出て、白～淡紫色の花が。



たたらたらの滝

二段 滝



たたらたらの滝下

上水内

石ヶ谷峽は、水内川との合流点から0.6キロメートル入った所。巨大な岩壁（名号岩）に南無阿弥陀仏の六字の彫刻をはじめ、比丘の瀨滝、夕立の滝は林道の側にあり、傾斜約50度、長さ約45メートルの滝です。普通はほとんど水は流れておらず、名の通り大雨の時のみ、みごとな滝となります。又、出合滝は夕立の滝より約500メートル上流の石岸側にあり高さ約11メートルの滝が出合滝です。滝壺は、ほとんど大小の石で埋まっています。滝は本流との出合より約20メートル支流側に後退しています。出会った所の本流にも高さ4.4メートルのなめら滝があり、本・支流にかかるこの二つの滝は始めはほとんど同じ位置に同じ高さであったものと考えられます。この二つの滝は、石ヶ谷川の最も上流の滝、燈明の滝、および最も下流の比丘の瀨滝とともに、石ヶ谷峽を歩いて深勝するとよいでしょう。

昭和12年5月28日指定 広島県名勝 石ヶ谷峽
昭和49年9月30日指定 広島県自然環境保全地域

石ヶ谷峽ハイキングコース

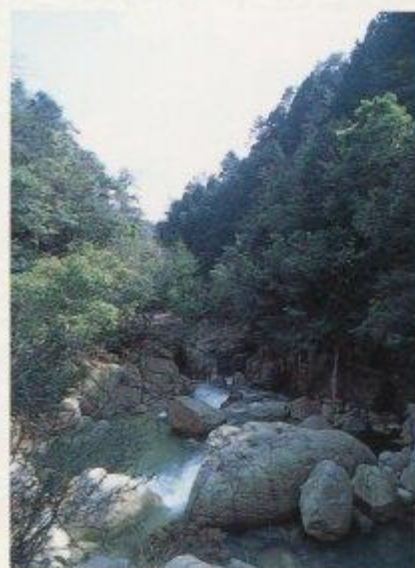
至遠すべし、シカタが原を経て長者原



⑤ 比^び丘^くの瀬^せ滝

ところ

石ヶ谷峽は国道433号と国道488号(大橋)分岐より約1.3キロメートル湯来温泉方面へ行くと石ヶ谷峽入口があり、そこから約1キロメートルのところが比丘の瀬滝です。



◆ 見どころ ◆

滝の高さは6メートルである。滝は北40度東の方向に流れおちて、滝の下からは北45度西の方向に直角に流れをかねておる典型的な滝の例です。滝つぼは幅3〜4メートルで長さは20メートルと細長く高さは4〜6メートルの切り立った岩壁となつています。幅が狭いが深さは5メートルもあります。

所要時間	登山口から徒歩15分林道そば
道の状況	なだらか
滝の落差	6メートル
滝の水量	普通



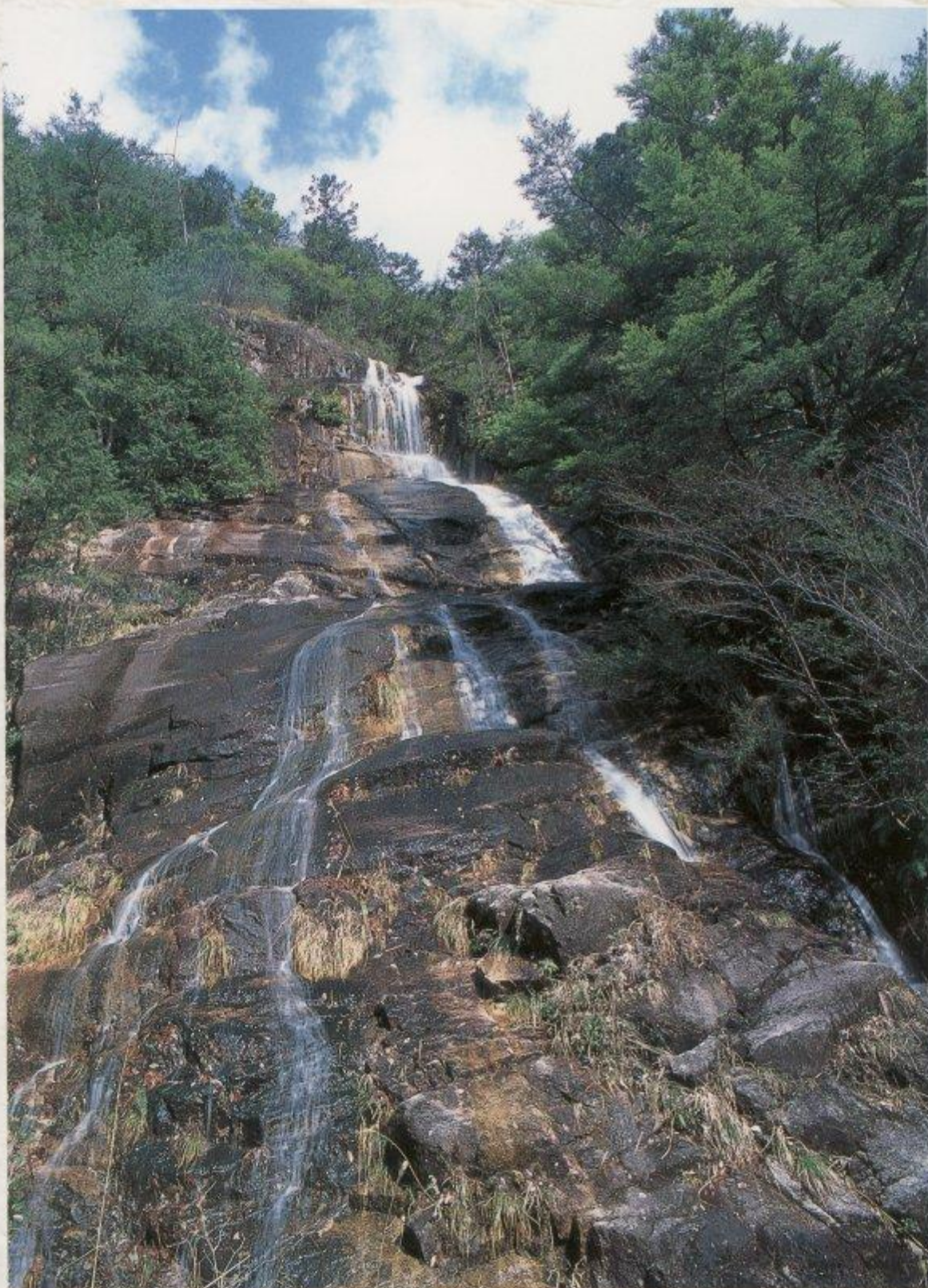
⑥ 夕立の滝 ゆうだち

ところ

国道433号と国道488号(大橋)分岐により約1.3キロメートル湯来温泉方向に行くと石ヶ谷峡入口があり、そこより石ヶ谷川を約1.9キロメートル上流左岸側にあります。

見どころ

石ヶ谷林道の右側にある傾斜約50度、長さ約45メートルの滝。普通はほとんど水は流れておらず、名の通り大雨の時のみ、みごとな滝となります。



彼岸花

秋の彼岸の頃に花を咲かせるのでこの名があります。鱧壁には毒がありますが、昔は水にさらして毒を取りでんぶんを利用していたようです。

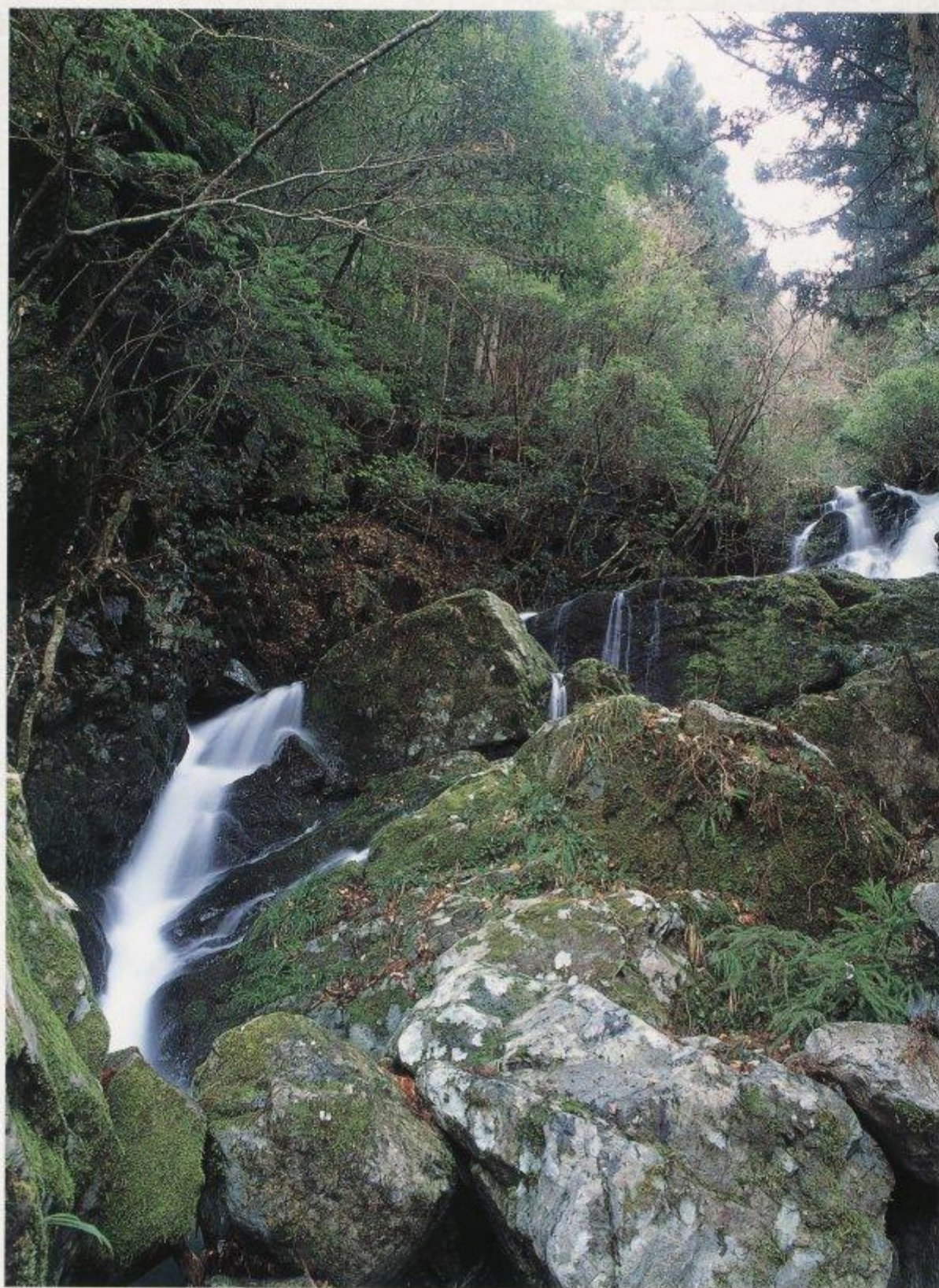
所要時間	登山口から徒歩30分林道そば
道の状況	なだらか
滝の落差	45メートル

⑦ 大山地の滝

おおやまじ

ところ

宮ヶ瀬の滝手前100メートル、国道488号を上り、
国道より眺めることができます。



見どころ

こんな所にもと驚くほど、国道から一步踏み込むと、木立の中にも、あざやかな光景を見せています。



ドグダミ(ドグダミ科)

日陰の湿気の多いところに生える多年草。
昔から、青腸薬や傷薬などとして10の
効能があることから「十薬」の名で重宝
がられてきました。

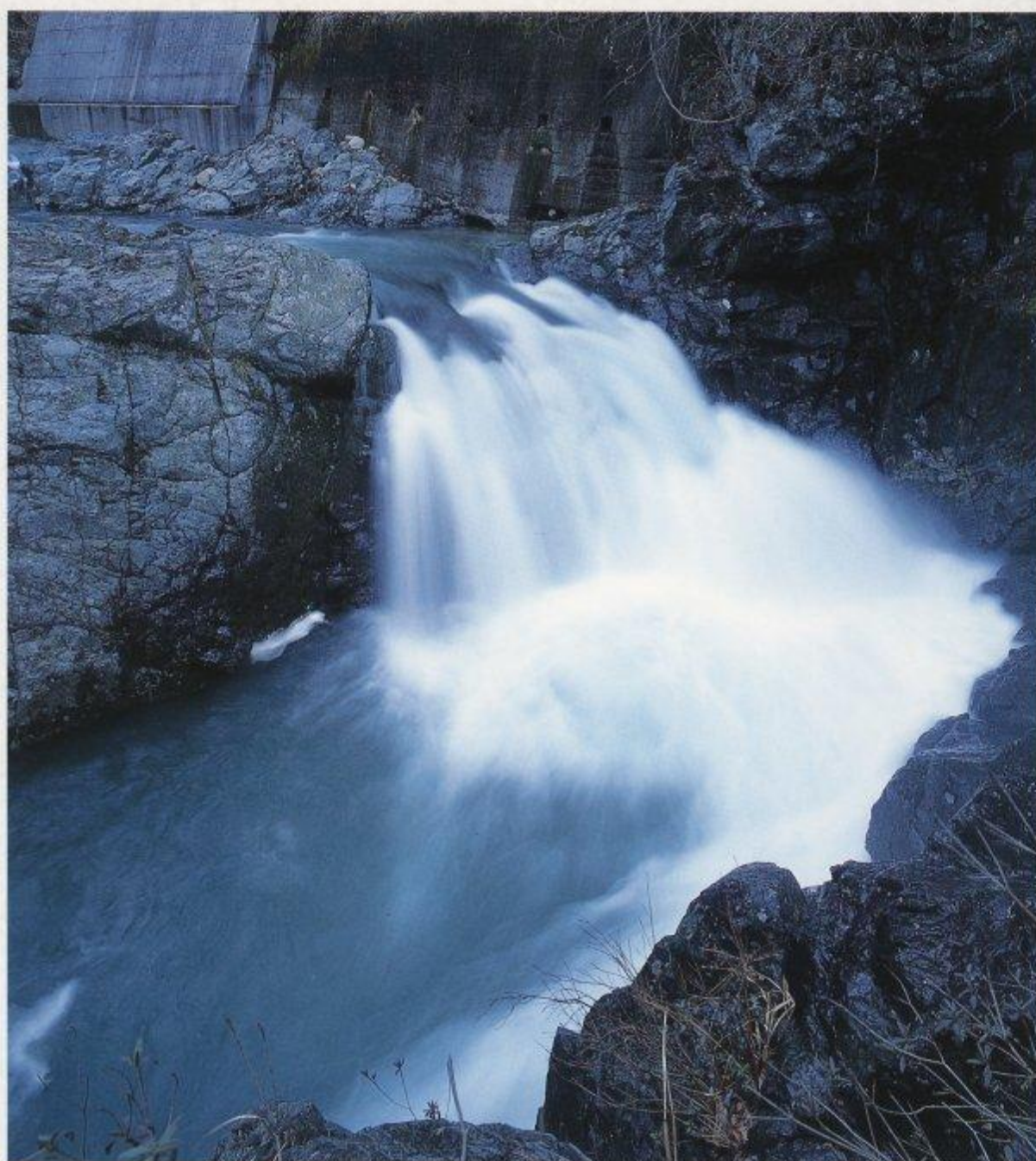
所要時間	道の状況	滝の水量
488号線そば	普通	普通

⑧ 宮ヶ瀬の滝

みやがせ

ところ

国道488号を多田方面に進むと、来ス根と志井の中間、国道下にあります。



見どころ

約180年前に書かれた「芸藩通志」には、多田村の名勝として瀧口瀑、魚限淵と名付けられています。滝の上を国道が走っていますが、近くに降り立つと四方の盤石にひびく滝の音、青黒く広がる深淵の不気味さで、まったく別世界に感じるようになります。

所要時間	488号線そば
道の状況	なだらか
滝の落差	5メートル
滝の水量	普通
滝全体の景観	年間良い

豆知識

山中雷に 出遭ったら

雷に出遭ったらとにかく逃げるしか策はありません。傘、ビッケルなどの金属物は身体から5メートル位はなして避難しましょう。避難場所は山小屋が一番ですが、何もない場所では少しでもくぼ地にひざを抱えてしゃがみこむのが良いでしょう。地面にはつたり岩に手をかけたりするのは、かえって危険。高い木の下には絶対に近づいてはいけません。

⑨ 明神滝 みょうじん

ところ

県道本多田佐伯線分岐より、国道488号を約500メートル吉和方面に進むと林道「大畑郷ノ実」線さらに約300メートル上ったところの橋梁より北方に見えます。さらに900メートル上るとこの滝三の滝が林道下に見えてきます。

明神滝上

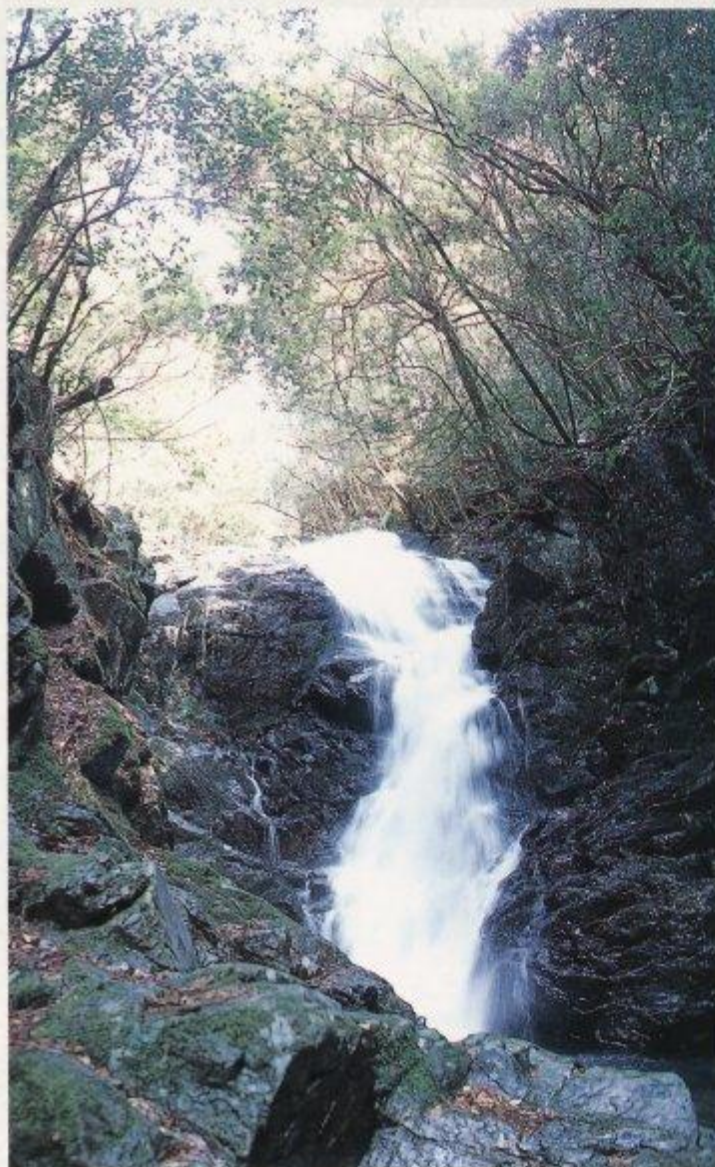
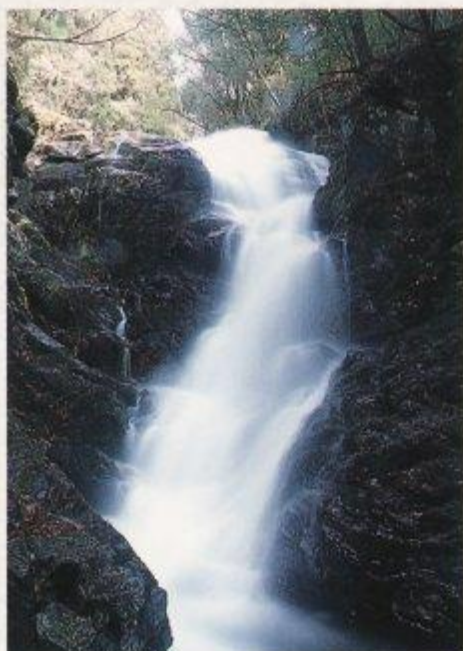
◆ 見どころ ◆

昔滝の上流に、こうのみという里がありました。そこに巖島明神様が滞在されたので明神滝と呼ぶようになりました。明神滝の三段に積んだ自然石、二丈(約6メートル)ばかりの石燈籠に神秘の常夜燈が、その時からつくられ、消ずの聖火として幾千年も光り輝いていたという伝説がある滝です。周囲は、そそりたつ岩壁、樹木が繁って薄暗い環境の中にも、三つの滝のそれぞれの光景を見せています。



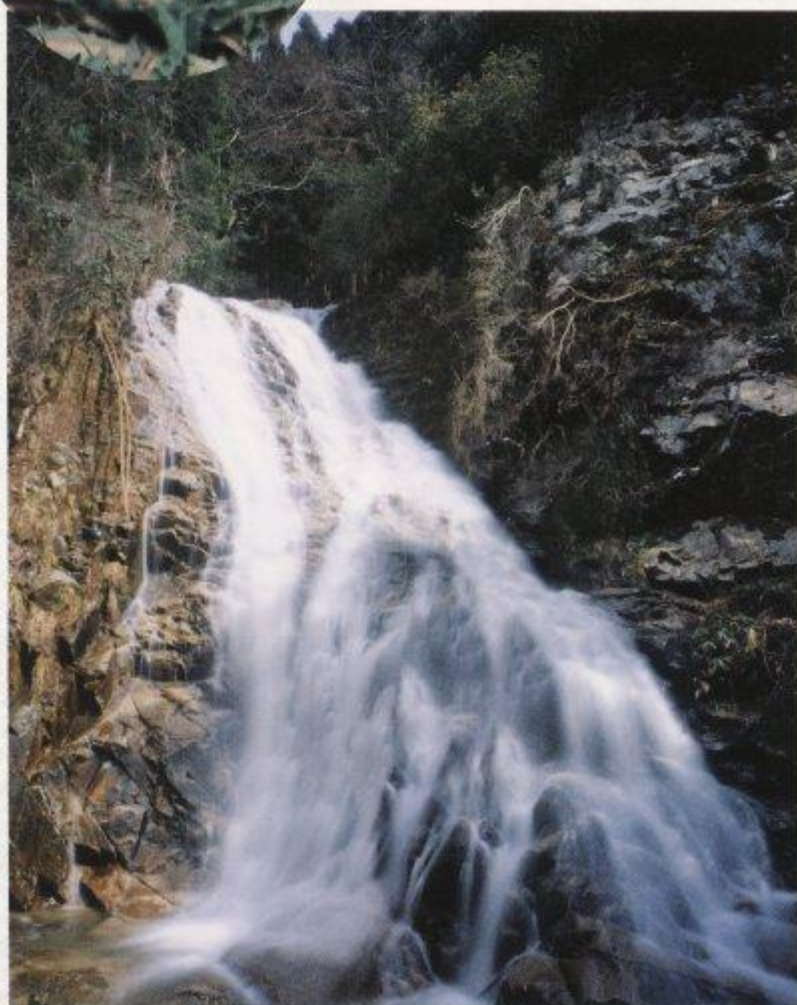
所要時間	林道より徒歩5分
滝の水量	普通

明神滝中



たんぽぽ(キク科)

日当たりの良い道ばたのどこにでもある多年草。乳の出をよくする野草として、牧場等では牛の乳の出を良くするために栽培されることがあります。



明神滝下

◆見どころ◆

昔、巖島明神が道に迷われた時、この滝から不思議な光を発し道案内をしたという伝説がある滝の一つです。周囲の樹木が繁って薄暗い環境の中にも、長々と尾を引く滝の白さが極だって目に映ります。

⑩ 出^で会^あいの滝

ところ

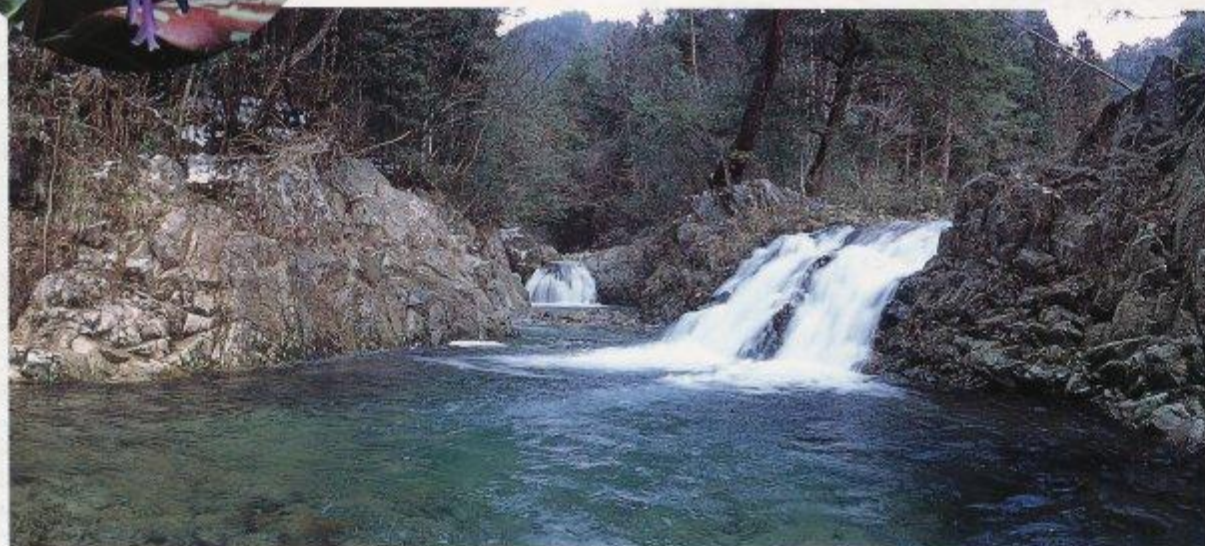


◆ 見どころ ◆

加下溪谷の本流水内川と栗屋郷川が交差したところにあります。二つの滝に侵食された岩壁によども底知れぬ深淵の無気味さの中にも純白な二つの水泡のコントラストが趣を深めます。

備考	滝全体の景観	滝の水量	滝の落差	道の状況	所要時間
50メートル先には以前、山の神が奉られていました。	落葉樹林が多く秋の紅葉はとくに良い。	普通	6メートル	なだらか	湯来町役場より車で約25分 下車徒歩2分

カタクリ(ユリ科)
4～6月。標高800メートル以上の落葉樹林下の湿り気のある傾斜面などでよく見られる。林床に群がって咲く姿は春の女王のごとく美しい姿を見せてくれます。鱗茎からでん粉が取れるので、かたくり粉の名で珍重されている。



国道488号と県道本多田佐伯線分岐より約2.4キロメートル入ったところの吉和村との町境に加下橋があり、この下流約20メートルのところにあります。

⑪ 岩井谷の大竜頭

ところ

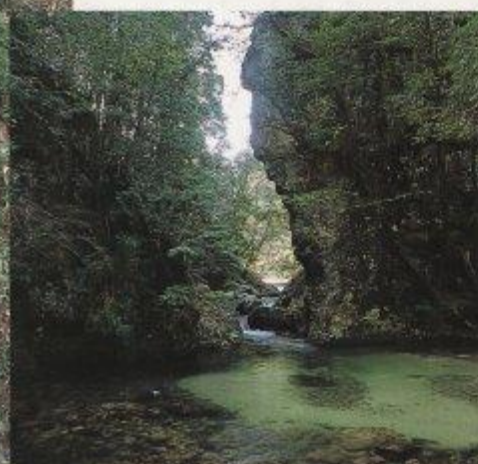
(武者かくしの滝)

◆ 見どころ ◆

大竜頭とよばれる滝は、高さ20メートルで、滝に向かって左側下に以前の滝の壁面が一部残っています。これによつて滝は約3.6メートル後退したことがわかる。大竜頭の約300メートル下流にも壁面高さ約15メートル、下部の幅約3メートルの峡門があります。この峡門の下流には、洩も存在しており、以前滝が存在していたことをうかがわせます。

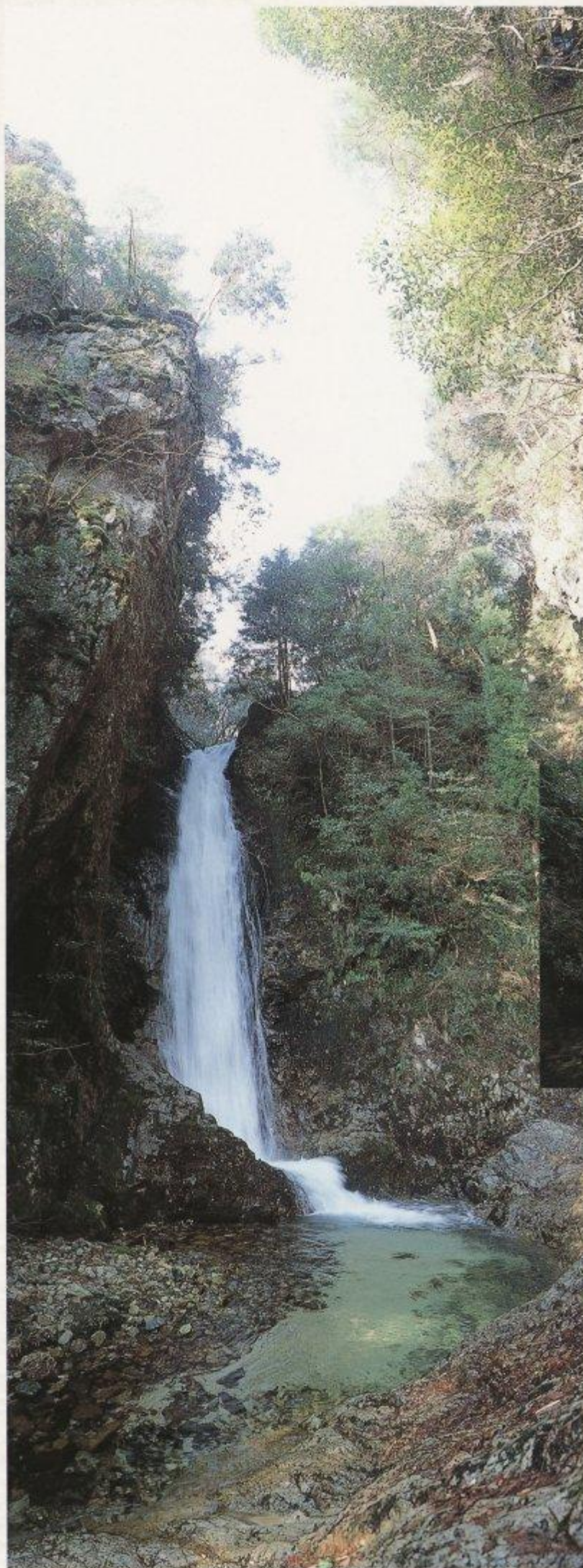
昭和58年3月31日指定 広島県緑地環境保全地域 東山溪谷

湯来町・吉和村・佐伯町の境界付近。国道488号と県道本多田佐伯線分岐より約3.3キロメートル水内川を上ると岩井谷川と合流しています。ここで水内川を渡つて岩井谷を590メートル上ったところに岩井大竜頭とよばれている滝があります。



途中 大竜頭までの景観

所要時間	登山口から徒歩25分
道の状況	河川敷
滝の落差	20メートル
滝の水量	普通
滝全体の景観	秋の紅葉はとくに良い





湯来町商工会

〒738-0601 広島県佐伯郡湯来町和田 75-1

TEL (0829) 83-0306

FAX (0829) 83-0614